

経営比較分析表（平成30年度決算）

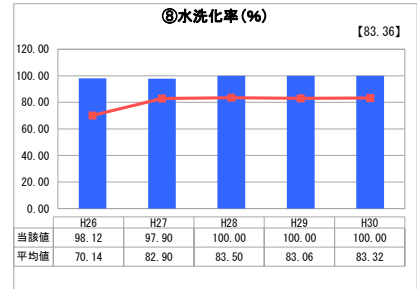
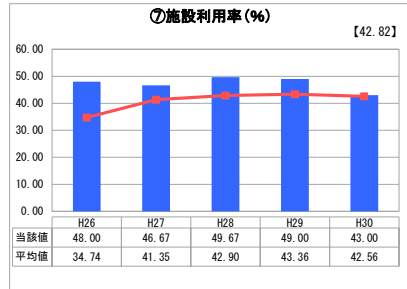
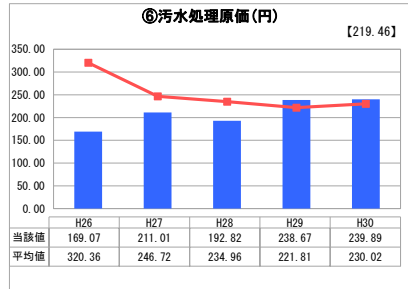
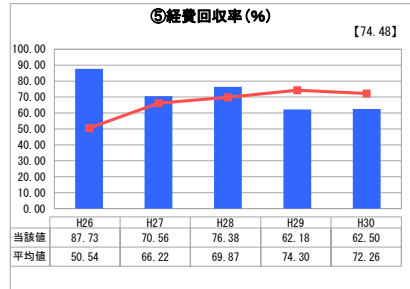
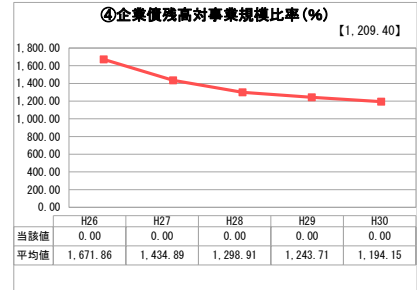
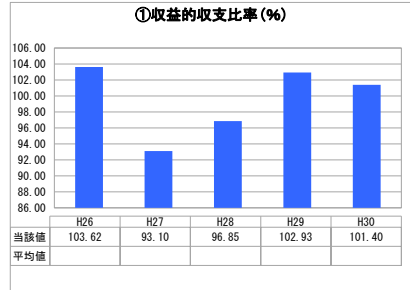
宮城県 西米良村

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家賃料金(円)
-	該当数値なし	38.35	87.79	2,500

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
1,153	271.51	4.25
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
431	0.23	1,873.91

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収益の収支比率
当該年度決算においては前年度と比較して約1.5%減少した。

②経費回収率
平成26年度からの経費回収率は60～80%台で推移している。これは修繕費用及び有収水量の低下が主な要因である。処理施設の機械設備が更新時期に入っているため、更新完了まではこの間で推移するのではないかと考えられるため更なる処理費縮減を検討したい。

③汚水処理原価
地方債の償還完了や経営見直し等により平均より低い水準で推移していた原価であるが30年度は29年度から引き続き高い水準である。これは当該年度修繕料の増加及び長期滞在者の減少による有収水量の低下が要因である。単年度に修繕が集中し原価が急騰しないよう引き続き計画的修繕を実施したい。

④施設利用率
当該年度利用率については、類似団体平均と同程度となっている。汚水処理量の低下により前年度とくらべ6%程度の低下となっているが、平成30年度の晴天時最大流入量が279m³/日であり最大処理能力の93.2%、また平均流入量が131.4m³/日で最大処理能力の43.8%となっていることから、施設規模は適正と考え維持管理に努めたい。

⑤水洗化率
事業区域内でほぼ100%を実現している。今後も維持したい。

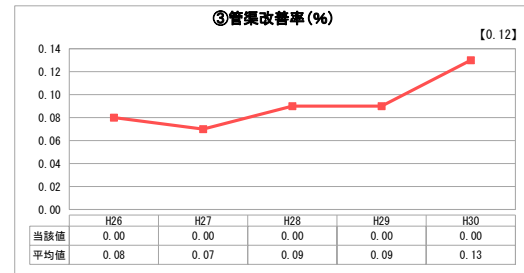
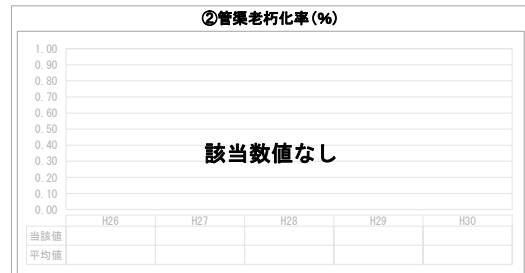
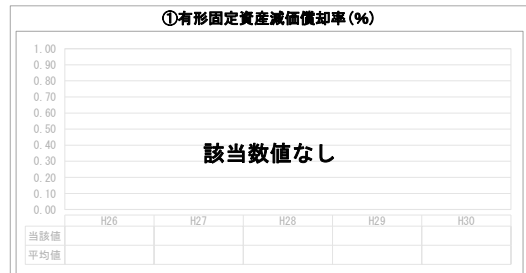
2. 老朽化の状況について

本村処理場は平成12年に供用を開始して以来稼働18年を経ているが本格的な設備更新時期を迎えている。令和2年度からは国庫補助金等を活用したストックマネジメント計画を策定する予定であり、点検・更新計画の立案に注力したい。営業については耐用年数を3分の1程度を経過した状況であり更新の必要はないと考えられる。

全体総括

地方債の完済に伴い汚水処理費用は減少し経営状態も改善されてきたが、修繕の増加、将来的な改築更新計画の実施に伴い多額の費用が必要となり経営を大きく圧迫することが予想される。今後とも経営状況に注視し安定した経営を実施できるように努めたい。なお、経営戦略については令和2年度までに策定予定である。

2. 老朽化の状況



※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。